

# Yame Piano Project

## スタインウェイ学外セミナー報告書

講座の名称	スタインウェイ学外セミナー ～スタインウェイ・ピアノの秘密～	
講師	武内 順一 (株式会社 松尾楽器商会 取締役)	
実施日時・期間	2011年6月15日(水) 18:30-20:45	
実施場所	松尾楽器 スタインウェイサロン関西ショールーム ミニホール (〒663-8204 兵庫県西宮市高松町3-3 ジオタワー西宮北口内)	
参加者数	学生16名、教員・スタッフなど4名	
講座の概要	<p>&lt;講座の概要&gt;</p> <p>セミナーは、「ピアノは何楽器?」という問いかけから始まった。ピアノは、打楽器であり、弦楽器であり、同時に鍵盤楽器であり、弦を鳴らすように弾くのが効果的である。続いて、創業者のスタインウェイとその息子たちが、どのようにスタインウェイ&amp;サンズ社を築き上げたかという歴史が語られた。現在のピアノは大きく「スタインウェイ風」と「ベーゼンドルファー」の2種に分けられるが、大半はスタインウェイを基に作られている。スタインウェイの煌びやかな音色を創るには、様々な工夫がなされており、今も100以上の特許がある。その製作工程と特徴について、NHK「旅のアルバム 世界の工芸品ピアノ」を映像資料として視聴した。</p> <p>セミナー後半は、楽器を囲んで、スタインウェイ・ピアノの特徴を学んだ。</p> <p>中でも響板には大きな特徴があり、いかに響板がよく音を振動させ音を速く伝えるかを、わかり易い実験で学んだ。オルゴールを壁や床、パソコンの上など、様々な素材の上に置き、音の振動がどう変化するかを体感した。オルゴールをピアノの響板の上に置くと、より音の振動が増し、音量が大きくなった。これにより、響板に使われるスプルース(松の木)がいかに音を速く伝え、音量も増すかを実感した。また、演奏者は鍵盤下の響板より、様々な音を手から伝わる振動を通して感じ、聴くことが肝心だとアドバイスをいただいた。他にも、音叉を用いて骨伝導について教わったり、水の入ったグラスの縁をなぞり波紋から音の振動を感じたり、講師の手作りの模型も加わってわかりやすく音と振動について学ぶことができた。</p> <p>学生からは「他のピアノに比べて脚が細いのは何故か」、「製作上のこだわりは何か」、「スタインウェイには楽曲はどのような曲が合うか」など多数質問が出て、武内氏から一つ一つ丁寧な回答があった。学生たちは事前に勉強して学内発表会も行っていたので、具体的な疑問をもっており、意欲的に学んで理解を深めることができた。</p> <p>スタインウェイの特徴と共に「ピアノ」という楽器の構造についても詳しい知識を得て、これから八女市民会館での公演に向けて企画を練り上げることとなる。</p>	  